

米原歴史街道

米原市の歴史・文化財を歩く

129

米原市の石塔③

—さまざまな石の塔—

7月15日(金)〜21日(木)

「石のまじばら」戦乱の中世と米原

伊吹山テレビで放送

石仏 石の塊を彫って作られた仏像の総称です。極楽往生を願う阿弥陀如来、六道を巡って浄土に導く地藏菩薩、修験の霊場で造立された大日如来など、さまざまな姿があります。藤川の共同墓地には、伊吹山の南東側とされる砂岩を使った、県内でもこの地域にしかないほほえましい線刻の地藏があります(写真①)。

板碑 中世に供養塔あるいは逆修塔(自分の死後や若くして亡くなった人の冥福を祈る仏事に伴う塔)として造立された卒塔婆です。関東には無数にあり板状に割れる緑泥片岩製で、上部を三角に切り、その下に二条の切り



写真① 石仏

込みをつくり、まん中に梵字や仏像を表し、下方に年月日その他を刻んだものが典型とされます。白山神社板碑(曲谷/市指定/写真②)は、鎌倉末から南北朝時代と推定される二本の板碑で、阿弥陀如来を半肉彫りし、観音・勢至の二菩薩を梵字で表しています。近江では貴重な資料です。

石幢 幢は「のぼり」の意味があり、寺院の須弥壇脇に天井から下がっているさらびやかな垂れ布が六角柱に組み合わされた形を石で表しました。志賀谷では地藏灯籠とよばれています。六角形灯籠の火をともし火袋がなく、六角形の塔身(龕部)になっていて、室町時代以降の地藏信仰から六地藏が彫られています。六地藏は、死後に行くとき



写真② 板碑



写真③ 石幢



写真④ 石碑



写真⑤ 磨崖仏



写真⑥ 狛犬

れる六つの苦しみの世界それぞれで救つてくださる地藏菩薩です。志賀谷の石幢(市指定/写真③)は、集落の中央番場にあり、二面の地藏立像は合掌像で、他は宝珠を捧げ、杖を持つ像です。貞享三年(二六八六)願主阿原氏の銘があります。青岸寺(米原)の石幢は、石幢の上部と灯籠の竿を合わせた寄せ灯籠として国名勝庭園を引きかたてます。常福寺(河内)の石幢は竿を失い仮堂に祀られています。

石碑 石の表面に銘文を刻んだものの総称で、広い意味では記念碑、下馬碑、道標などの標識から、仏教的な供養碑までを含みます。珍しいものを紹介しましょう。志賀谷には、江戸時代後期に伊吹山で修行し、槍ヶ岳開山で知られる播隆上人の独特の字体が刻まれた「南無阿弥陀仏」の六字名号碑(写真④)が秋葉神社と共同墓地にあります。三島池の東側には、西南戦争に出征して亡くなった陸軍伍長岩嶋鶴次郎の碑があります。千福神社(高番)には、日露戦争へ出征した地域出身者の名を刻んだ、乃木希典が記した

記念碑があります。

磨崖仏 崖など岩肌が露出してるところに仏像や仏像を表す梵字など仏教関係彫刻を施したものです。人里離れた岩山や川岸にみられ、山岳信仰と関連があります。堂谷の梵字石(写真⑤)は、弘法大師が黒田川の淵に住む大蛇から里人を救うために彫ったといわれています。柏原の岩ヶ谷には、地名の由来となった大梵字石があります。市内では貴重な磨崖仏です。

狛犬 大陸から伝来した神の守護獣です。実は、左に置かれる角があり口を閉じた片形像が「狛犬(高麗犬)」で、右の角が無く口を開いた阿形像が「獅子(唐獅子)」ですが、今では阿形の区別しなくなり、一対で狛犬とよばれます。勝居神社(杉澤)には、とても可愛らしい江戸時代の作風をみせる小型の狛犬(写真⑥)があります。越前の笏谷石で台座とともに造られています。(歴史文化財保護課)